2017年1月号　　1月15日（日）発行

釧路湿原国立公園　　温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 244

とり年の新年…

明けましておめでとうございます。2017年が始まりました。
温根内はすっかり雪に閉ざされ、縛れる日が続いていますが、新年から律儀にフクロウが挨拶に（?）来てくれました。とり年の今年、たくさんの鳥たちが姿を見せてくれることを期待したいですね。また、皆様にとっても飛翔の年となることをお祈りいたします。

☆☆☆温根内ビジターセンター　探勝木道周辺の自然情報☆☆☆

～温根内探勝木道周辺の自然～

【リップルマーク】
木道上やヨシ・スゲ湿原の風の通り道では、表面の雪が「さざ波」のような模様を作っているときがあります。風による浸食と堆積が交互に作用してできます。

【クサソテツ】
コウヤワラビ科　草蘇鉄
春に山菜のコゴミとして知られるシダ植物。立ち枯れた状態で雪から顔を出しています。エゾシカもこれは好みではないようです。

【湧水の氷紋】
気温の下がった朝、鶴居軌道沿いの湧水の表面には薄氷が張り、まるで縄文土器のような造形ができているときがあります。まさに氷のアートです。

【エゾユキウサギの足跡】
蝦夷雪兎
人の顔のような特徴的な足跡でよくわかります。横に並んだ足跡が後ろ足、縦に並んだ足跡が前足です。ヨシ・スゲ湿原で見られます。

【ヤチボウズ】
カブスゲなどの叢生するスゲで作られるヤチボウズ。今は雪に覆われてマシュマロのような姿になっています。冬はこの状態で辛抱し雪解けを待ちます。

【クモガタガガンボの仲間】
ガガンボ科
晴れて暖かい日に、雪の上を歩いています。クモのように見えますが脚は６本で昆虫の仲間です。翅は退化しています。

○表紙の写真 上：フクロウ　中右：シジュウカラ　中左：ベニヒワの群れ　下：ハシブトガラ

～温根内探勝木道周辺の野鳥～

温根内にもいよいよ、冬の使者オオワシがやってくるようになりました。また、今冬はハンノキの実が豊作のようで、それを目当てにやってくるマヒワやベニヒワの群れも頻繁に見かけます。この時期は晴天が多いですが、気温は低いので、野鳥観察の際には防寒対策をお忘れなく。ビジターセンターでは双眼鏡を無料で貸し出しております。

【フクロウ】　留鳥
フクロウ科　梟
ハンノキの枝に眠たそうにして止まっていました。愛らしい姿が来訪者の注目の的でした。北海道の種は亜種エゾフクロウ。

【オオワシ】　冬鳥
タカ科　大鷲
国内で見られる猛禽類の中では最大級の種です。翼開長は大きい個体で 2.5m にもなり、上空を飛翔する姿には圧倒されます。

【ベニヒワ】　冬鳥
紅鶸　アトリ科
ハンノキの実を目当てに、群れをなしてやってきました。赤い額が特徴で、飛ぶときに「ジュ、ジュ・・」と鳴きます。

【コゲラ】　留鳥
キツツキ科　小啄木鳥
カラ類と混群を作り移動しています。樹皮を突いて裏側の虫などを捕食しています。国内のキツツキ類では最小の種です。

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥（12 月 15 日～ 1 月 14 日）※和名は日本鳥類目録第 7 版の順

■オオハクチョウ■タンチョウ■トビ■オジロワシ■オオワシ■ノスリ■フクロウ■コゲラ■アカゲラ■モズ■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ワタリガラス■ハシブトガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■エナガ■ゴジュウカラ■キバシリ■ツグミ■セグロセキレイ■アトリ■マヒワ■ベニヒワ

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

☆☆☆特集 教えて！木道から見えるあの山は何？ その②☆☆☆

64 番付近から見える山々（撮影日：12/15）

前号では、木道からよく見える阿寒の山々を紹介しました。今回はもう少し難しく、おそらくあまり注目されていない山をご紹介したいと思います。（正直、我々 VC 指導員も同定するのに苦労しました。それくらい“マイナー”な山です。）晴れた日に、ミズゴケ湿原展望テラスから 200m ほど進んだ 64 番地点付近から再度北方向を眺めてください。雄阿寒岳が見えていると思いますが、そのさらに東側に、雪を被ったピークがいくつか見えると思います。ここではその中で代表的な山を紹介します。なお詳しい観察には双眼鏡が必須です！

＜辺計礼山・志計礼辺山・裏辺計礼山＞

いきなり読み方がよくわからない山が続々登場です。比較的大きな裾野が見えているのが辺計礼（ペケレ）山といって、標高は 732m。ここから見える阿寒の山以外では、最も標高の高い山です。「ペケレ」とはアイヌ語で「明るい」という意味で、木があまり生えず、草が茂って明るく見えていたことからこの名前がついたそうです。登山道もあるようなので、今度登ってみたいと思います。志計礼辺（シケレベ）山は標高 581m、辺計礼山の手前に重なっており、稜線がくっき

辺計礼山・志計礼辺山・裏辺計礼山の拡大写真

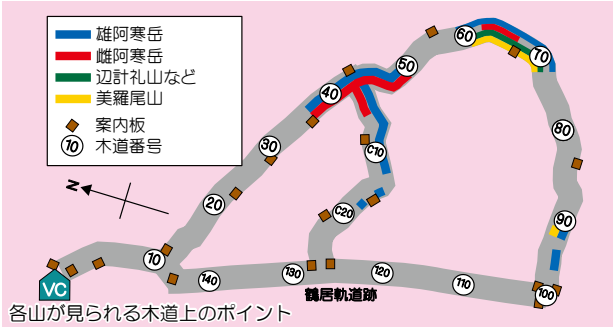
り見える日でないとなかなか識別が難しい山です。さて、辺計礼山の西にはもう一つピークがあります。よく見ると、辺計礼山より奥側にあるのがわかります。これが裏辺計礼山（標高 606m）です。

＜美羅尾山＞　辺計礼山よりもさらに東に、わずかに頭をのぞかせている山があります。弟子屈町市街地の西に聳える標高 553m の山、美羅尾（ビラオ）山です。アイヌ語の「崖の・所」（ピラ・オロ）が語源という説があります。山頂にアンテナがいくつも建てられているのが特徴で、双眼鏡でも確認することができます。美羅尾山は 91 番付近から見ると、全貌がもう少しわかります。ハンノキ林の間から北方向を注視して歩いてみてください。

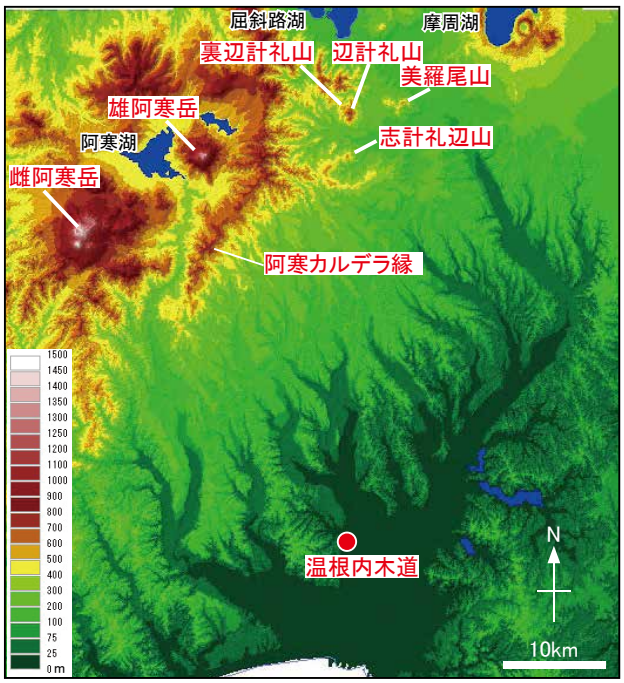
91 番付近からの美羅尾山（鉄塔が見える）

―― いかがでしたか？普段あまり注目しない「山」を紹介してきましたが、もちろん釧路湿原と無関係ではありません。湿原を形成する水は、これらの山々から流れてきています。これらの山々が清浄な水を運んできているおかげで、湿原に色んな植物が根付き、それを餌とする動物や昆虫が集まってくるのです。釧路湿原と聞くと、どうしても花や野生動物に注目が集まりがちですが、時には湿原を囲む「地形」に着目して歩いてみると面白い発見があるかもしれません。

※本特集で紹介した山の木道で見られる地点（左下図）と、全体の位置関係（下図）を示しました。　（藤原伸也）



各山が見られる木道上のポイント



☆☆☆☆イベントのご案内（2月）事前の申し込みが必要です☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター　⇒お申し込み☎ 0154-65-2323

♪スノーシューで湿原ハイク

〔日時〕2月 12 日（日）10：00～12：00　〔定員〕 10 名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料　〔場所〕温根内ビジターセンター

スノーシューを使って冬の湿原とその周辺の散策を楽しみます。スノーシュー初心者の方でも丁寧に教えますので大丈夫です。

○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎ 015-487-3003

♪冬の塘路湖畔散策

〔日時〕2月 18 日（土）10：00～12：00〔定員〕10 名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料　〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

～スノーシュー無料貸出中～

ビジターセンターではスノーシューを無料で貸し出しております。ご要望の際は、お気軽にビジターセンター指導員までお申し付けください。

月刊　温根内通信　No. 244

発行：釧路湿原国立公園　温根内ビジターセンター

〒 085-1145　北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel：0154-65-2323　Fax：0154-65-2185

E-mail：ovc@hokkai.or.jp

ホームページ：http://city.hokkai.or.jp/~kkr946/

Facebook：温根内ビジターセンター　フェイスブック

開館時間：10:00～16:00（4 月～ 10 月は 17:00 まで）

休館日：毎週火曜日（12/29～1/3 は休館）　入館無料